

※ 敬称略

28日 A会場	
荒木 重雄	欧州最大手の通信会社の日本法人社長を経て2005年に野球界入り。千葉ロッテ球団、パシフィックリーグマーケティングの要職を経て2009年に(株)スポーツマーケティングラボラトリー (SPOLABo) を創設し、同社代表取締役役に就任。2013年から2017年まで野球日本代表 (侍ジャパン) の事業戦略、デジタル戦略を担当。2018年に業界初となるスポーツ日程情報アプリ「スポカレ」をリリースに合わせ(株)スポカレを創設、同社の代表取締役役に就任。
伊藤 慎次	1967年生 (52歳) 三重県・菰野町出身 ◆経歴 1990年 東海大卒業～ 松下電器産業(株) 1991年 松下サッカークラブ (Jリーグ準備室) 1993年 Jリーグ開幕 2002年 日韓ワールドカップ・LOC (長居メディア) 責任者 2010年 Jリーグ事務局・事業部出向 2013年～現職：(株)ガンバ大阪・営業部長 ◆サッカー歴 (FW) 1985年 秋田インターハイ・全国優勝 1986年 全国高校サッカー選手権・全国準優勝
利重 孝夫	読売サッカークラブユース出身、東京大学在学中はア式蹴球部でプレー。卒業後は日本興業銀行 (現みずほファイナンシャルグループ) を経て、2001年楽天に入社。常務執行役員を歴任し、クリムゾンフットボールクラブ (Jリーグ・ヴィッセル神戸の元運営会社) の取締役も務めた。2014年2月にシティ・フットボール・グループに加わる。東京大学ア式蹴球部総監督。サッカー雑誌footballistaを発行する(株)ソル・メディア代表取締役。
上野 直彦	スポーツライター。漫画原作者。経営者。 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科・修士課程修了。早稲田大学スポーツビジネス研究所・招聘研究員。サッカー漫画『アオアシ』 (小学館) で取材・原案協力。アオアシは マンガ大賞 2017 にて 4 位を獲得。また、ブロックチェーン業界における ALiS、PoliPoli、エンゲート、リアルワールドゲームスなど数社でアンバサダーやアドバイザーに就任。国内外で「スポーツ × トークンエコノミー」のプロダクトを進めている。
大河 正明	1958年5月31日、京都府生まれ。1981年、京都大学卒業後、三菱 (現・三菱東京UFJ) 銀行入行。1995年から2年間、日本プロサッカーリーグ (Jリーグ) に出向。その後、銀行に戻り支店長などを務めた後、2010年に銀行を退行。2012年、社団法人日本サッカーリーグ理事に就任。2014年、公益社団法人日本プロサッカーリーグ常務理事に就任。2015年、公益財団法人日本バスケットボール協会専務理事、一般社団法人 (現・公益社団法人) ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ (B.LEAGUE) チェアマン (理事長) 就任。
瀧本 寛	生年月日 昭和37年9月9日生 昭和61年 4月 文部省入省 昭和61年 8月 体育局スポーツ課 昭和63年 7月 体育局競技スポーツ課 昭和63年 8月 初等中等教育局高等学校課 平成 2年 4月 学術国際局留学生課 平成 3年11月 教育助成局地方課 平成 5年 8月 岐阜県教育委員会学校指導課長 平成 8年 4月 初等中等教育局中学校課課長補佐 平成 9年 9月 学術国際局国際企画課専門員 平成10年 2月 外務省へ出向 (OECD日本政府代表部一等書記官) 平成13年 7月 初等中等教育局初等中等教育企画課教育制度改革室長 平成15年 4月 名古屋大学経理部長 (平成16年4月～ 財務部長) 平成17年 7月 初等中等教育局特別支援教育課長 平成19年 7月 大臣官房総務調整官 (国会担当) 平成21年 7月 文教施設企画部施設助成課長 平成24年 7月 千葉県教育委員会教育長 平成27年 8月 大臣官房総務課長 平成28年 6月 大臣官房審議官 (初等中等教育局担当) 平成29年 7月 大臣官房審議官 (高等教育局担当) 平成30年10月 大臣官房総括審議官 令和 元年 7月 スポーツ庁次長
清宮克之	1967年、大阪府生まれ。大阪府立茨田 (まった) 高校でラグビーを始め、3年時に花園の全国大会に出場。高校日本代表にも選出される。1986年に早稲田大学入学。1年からレギュラーになり、2年時に日本選手権優勝。4年時には主将として大学選手権優勝に導く。大学卒業後、1990年にサントリー (株) に入社とともに、サントリーラグビー部に入部、1992～94年には主将を務めるなど中心選手として活躍。2001年に引退後、早稲田大学ラグビー蹴球部監督に就任。就任後5年連続で関東大学対抗戦全勝優勝、大学選手権も3度制覇し、早稲田ラグビー復活の原動力となる。2006年、5年ぶりにサントリーラグビー部へ監督として復帰。監督2年目の2007年度に、サントリーを初のトップリーグチャンピオンへと導く。 2009年シーズン終了とともに監督を辞任。2011年よりヤマハ発動機ラグビー部監督に就任。リーマンショックで強化を縮小したチームを4年で日本一に導く。 2018-2019年シーズン終了をもって監督を退任。静岡県で、2019年1月、女性と子どもたちを対象とした総合スポーツクラブ、一般社団法人アザレアスポーツクラブを設立。2019年6月、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 副会長に就任。

境田正樹	弁護士、2015年4月～国立大学法人東京大学理事、2015年9月～公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ（Bリーグ）理事、2016年4月～公益財団法人日本バスケットボール協会理事、2019年3月～一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）理事・データベース開発委員会委員長、2019年6月～公益財団法人日本ラグビーフットボール協会理事。これまでスポーツ基本法の制定をはじめ、多くのスポーツ団体のガバナンス強化、改革に関与。
谷口 真由美	博士（国際公共政策）、大阪大学非常勤講師、（一社）アザレア・スポーツクラブ理事
二宮 清純	1960年、愛媛県生まれ。フリーのスポーツジャーナリストとしてオリンピック・パラリンピック、サッカーW杯、メジャーリーグなど国内外で幅広い取材活動を展開。明治大学大学院博士前期課程修了。広島大学特別招聘教授。大正大学地域構想研究所客員教授。認定NPO法人健康都市活動支援機構理事。著書に「スポーツ名勝負物語」（講談社現代新書）、「勝者の思考法」（PHP新書）、「人を動かす勝者の言葉」（東京書籍） など多数。 [HP] https://www.ninomiyasports.com
28日 B会場	
広瀬 統一	現在は早稲田大学スポーツ医科学クリニック長として、大学生アスリートの安全・健康管理体制の構築を行っている。これまで東京ヴェルディ1969、名古屋グランパスなどで成長期サッカー選手対象のフィジカルコーチとして活動。2008年からはサッカー女子日本代表のサポートを行っている。スポーツ傷害予防をテーマに、若年層から成人まで幅広い年齢層を対象に研究を行い、研究成果をスポーツ現場に還元すべく活動している。
川村 慎	1987年生まれ、東京都調布市出身。 10歳から香港ラグビーフットボールクラブでラグビーを始める。帰国後府中Jr.ラグビークラブに所属、慶應義塾高校、同大学法学部政治学科を卒業し、博報堂DYメディアパートナーズに入社。その後日本電気株式会社（NEC）に転職し、NECグリーンロケッツに入団。同チーム10年目、現在も現役でプレー中。現役選手・会社業務の傍ら、2016年に廣瀬俊朗氏などとともに日本ラグビーフットボール選手会（JRPA）を設立。設立年度から現在も副会長として活動。選手への研修、被災地支援などの社会貢献、絵本「らくがきボール」制作や普及、日本ラグビーフットボール協会との意見交換など様々な取り組みを行っている。
室伏 由佳	1977年静岡県生まれ。博士(スポーツ健康科学)。2004年アテネオリンピック陸上競技女子ハンマー投日本代表、女子ハンマー投の日本記録保持者、女子円盤投の元日本記録保持者(2019年5月現在)。アスリート時代に悩まされた慢性腰痛症や女性の健康問題の経験やスポーツ健康科学研究を基に、スポーツと健康やスポーツ医学、運動学などをテーマに講義や運動実技指導を行っている。
岩淵 健輔	
森 貴信	総合商社、自動車会社を経て、V・ファーレン長崎・サガン鳥栖・埼玉西武ライオンズで創業や経営改革に関わる。2017年7月より公募にてラグビーワールドカップ2019組織委員会へ参画。著書に『スポーツビジネス15兆円時代の到来』（平凡社）がある。慶応ビジネススクールMBA。長崎県出身。
本田 祐嗣	建設技術者、リスクマネジメントのコンサルタントを経て、2012年にラグビーワールドカップ2019組織委員会に加わる。開催都市募集要項・ガイドラインの制作、大工程などプロジェクトの全体計画の策定を担当したのち、現職。大阪府出身。
28日 C会場	
臼井 亮人	1980年 北海道札幌市生まれ、中学校より苫小牧在住 1998年 北海道苫小牧東高等学校卒業（アイスホッケー部所属3年時主将） 1998年 慶應義塾大学環境情報部（体育会アイスホッケー部所属4年時主将） 2002年 慶應義塾大学環境情報部卒業 伊藤忠商事株式会社入社 宇宙情報マルチメディアカンパニー配属 2013年 ITベンチャーを経て、cmapper 株式会社設立、代表取締役就任 2019年5月 グリッツスポーイノベーターズ株式会社設立、代表取締役就任
28日 D会場	
吉岡淳平	1977年生まれ。青山学院大学男子バスケットボール部、バスケットボールユニバーシアード男子日本代表チーム、日本航空女子バスケットボール部、サントリーラグビー部を経て、2009年から東芝バスケットボール部アスレチックトレーナー。現在は医療、栄養、フィジカルトレーニングにわたるコンディショニング全般を統括している。
荒尾裕文	1968年鳥取県出身。順天堂大学卒。1995年シーズンより（旧：トヨタ自動車バスケットボール部から）現チーム所属。その傍らWJBL、大学バスケットボール、社会人アメリカンフットボール、ラグビー、サッカー、陸上競技などでもコンディショニングコーチとしての活動経験を持つ。著書「プレーの精度がUP!する 自重体幹トレーニング」、「個人技が飛躍的にUP!する 体幹トレーニング」共に（株）マイナビ出版
池田 祐輔	2011-2013season パナソニックトライアンズ（JBL） 2013-2016season 東芝ブレイブサンダース神奈川（NBL） 2016-現在 千葉ジェッツふなばし（B League）
宮田 誠	商社、半導体ベンチャー、ブリヂストンでのマーケティングキャリアを経て、2008年に株式会社ユーフォリアを設立。マーケティング/コンサルティング、システム開発を行う。スポーツ選手のコンディション管理システム「ONE TAP SPORTS」シリーズを、ラグビー日本代表をはじめとする300以上のチームに展開中。長野県出身で親族に3名の冬季五輪（アルペンスキー）選手がおり、自身もスキー・マラソンなど国際大会の企画・運営を行う。
田中 直史	株式会社ラストワンマイル代表取締役社長。東北風土マラソン実行委員のほか、為末大の運営するSports×TechnologyのワーキングスペースDEPORTARE COMPLEXの支配人でもある。東京2ヶ所、白馬、石垣島のシェアリングスペース4か所を自社で運営すコミュニティ運営のかたわら。Freeride World Tour Hakubaのボランティア統括、東北風土マラソン&フェスティバル実行委員などのスポーツ×地域の関わりが深い。
森村 ゆき	一般社団法人PARACUP代表理事 2005年PARACUP～世界の子どもたちに贈るRUN～を立ち上げる。参加者400人寄付金額100万円ではじまった大会は、現在までに累計約5万人が参加、寄付金総額は約1億円。大会の企画運営は社会人や学生約20名が全員ボランティアで行っている。 東京マラソン第1回目から2015年大会まで、ボランティア運営に携わり、ボランティアセンター長も務める。現在は東京マラソンボランティア組織、ボランティアナーのアドバイザー。

荒木 重則	株式会社カプコン 常務執行役員 経営戦略室長 Capcom USA取締役、Capcom Europe取締役 国内外のゲーム、エンタメ業界で約25年間、要職を歴任。 株式会社カプコンに入社後、常務執行役員（現任）、eSports事業統括を経て、 2019年4月より経営戦略室長。主にeSportsの戦略を担当。
上野 直彦	スポーツライター。漫画原作者。経営者。 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科・修士課程修了。早稲田大学スポーツビジネス研究所・招聘研究員。サッカー漫画『アオアシ』（小学館）で取材・原案協力。アオアシは マンガ大賞 2017 にて 4 位 を獲得。また、ブロックチェーン業界における ALiS、PoliPoli、エンゲート、リアルワールドゲームスなど数社でアンバサダーやアドバイザーに就任。国内外で「スポーツ × トークンエコノミー」のプロダクトを進めている。
星川 精豪	2013年 早稲田大学大学院スポーツ科学研究科アスレティックトレーニング学修了 2003年～2011年 青山学院大学フィットネスセンター 2009年～ 江戸川大学アスリートセンター（トレーナー兼非常勤講師） 2013年～2016年 早稲田大学ラグビー蹴球部アスレティックトレーナー 現在 日本オリンピック委員会強化委員（医・科学スタッフ） トレーナー活動（男子バスケットボール日本代表：サポート、江戸川大学男子バスケットボール部、実践学園中学校男子バスケットボール部、聖路加国際病院整形外科）
28日 E会場	
桜井 雄一郎	1978年東京都生まれ。大学院修了（在学中にMoscow Architectural Instituteに留学）後、アトリエ建築設計事務所、日建設計、建築企画事務所を経て2016年に独立。2019年に株式会社hincha設立。主に都心部の大規模都市開発におけるソフト面（コンテンツ）のコンセプトメイキングから事業企画・プロジェクト推進まで、総合的なプロデュースを多数手掛ける。企業・行政などの「事業者」とクリエイター、運営者等の「コンテンツ」をつなぎ、プロジェクトにおける新たな価値を創出することを得意とするプランナーとして活動している。近年は、スポーツを中核とした街づくりプロジェクトの事業企画・施設計画・運営計画に関わっている。
高倉 裕紀	香川県出身。神戸大学経営学部卒業。Red Bull Japan、株式会社トライフ(現ONE CAREER)、株式会社三井物産を経て2017年より公益財団法人日本サッカー協会に入局。サッカー日本代表スポンサーシップのアカウントマネジメント業務として、代表スポンサーシップの権利行使サポートや企画立案・実行を担当。2019年よりFIFA Women's World Cup 2023の招致事務局を兼務。マーケティング部門にて招致コンセプト策定やプロモーション、招致ブックの策定に従事。スポーツを通じた事業開発、社会課題の解決に強い関心があり、競技団体の視点からスポーツマーケティング、スポンサーアクティベーションを企画・実施することを主領域として活動している。
三宅 洋基	広告代理店にて、外資系アパレル等の担当営業として年間のコミュニケーションプランの計画立案、遂行に従事。その後、エンタテインメント&スポーツマーケティング関連部署にてスポンサーシップコンテンツ開発及びセールス等を中心とした業務を多数経験。 2018年10月よりデロイトトーマツ ファイナンシャルアドバイザーのスポーツビジネスグループに参画。スポンサーアクティベーション戦略支援等を中心に多数のプロジェクトに関与。
鈴木 涼平	1994年埼玉県生まれ。慶應義塾大学卒業後、米スポーツブランド・アンダーアーマーの日本総代理店である株式会社ドームに入社。社長室に配属となり、経営戦略の策定・新規事業開発・社外広報に従事。新規事業開発では、大学と提携し大学スポーツの改革を目指すプロジェクトへ参画。社外広報では、講演に登壇する役員の資料作成を担当。その後、スポーツマーケティング部門に異動・CSMO付となり、部門戦略の策定・契約アセット選定基準の策定に従事。また、社内横断プロジェクトを立ち上げ、現在も全体を統括・推進中。再び組織改編を経て、現在はマーケティング部門に異動・CMO付。
久木留 毅	博士（スポーツ医学） 日本スポーツ振興センター 国立スポーツ科学センターセンター長 ハイパフォーマンス戦略部部長、味の素ナショナルトレーニングセンター副センター長、 専修大学文学部教授 社会活動：スポーツ庁参与 日本パラリンピック委員会特別強化委員会委員 Association of Sport Performance Centresアジア大陸理事 前スポーツ審議会スポーツ基本計画部会委員 等
羽物 俊樹	慶應義塾大学 理工学研究科電気工学専攻修了 アンダーセンコンサルティング（現アクセンチュア）を経て、2000年にスカイライトコンサルティング株式会社を設立し、代表取締役に就任。スカイライトでは、経営コンサルティングとベンチャー投資を展開。2015年に東京ヴェルディと資本業務提携を締結し、スポーツビジネス領域に参入。2019年にブラジルサンパウロにスポーツコンサルティングのS.F.C.B.を元サッカーブラジル代表エジミウソンと設立。共同でサッカー人材育成事業をスタート。
藤川 宏	1987年に麒麟ビール入社。酒類営業経験後、1995年コーネル大学（MBA）留学、97年卒業。国際ビール事業部に帰任後、豪州に4年半駐在。帰国後はマーケティング部、秘書室、戦略企画部を歴任後、再びシンガポール・ミャンマーで海外駐在し、2017年に麒麟ホールディングス(株)・麒麟(株)・麒麟ビール(株)人事部長兼任。2019年4月から日本サッカー協会に外向。
東野 智也	北陸高校時代にインターハイ優勝。早稲田大学を経てアンフィニ東京へ。 現役引退後、アメリカで学びルイス&クラーク大学のアシスタントコーチ（AC）に。 その後、バスケットボール日本リーグ機構およびbjリーグの各チームACやヘッドコーチ、男子日本代表チームのコーチを歴任。 2012年、早稲田大学大学院トップスポーツマネジメント修了（最優秀論文賞受賞）。 2014-15シーズンには浜松・東三河フェニックスをbjリーグ優勝に導く。2016年5月より現職。
神武 直彦	大学院修了後、宇宙開発事業団入社。ロケットの研究開発と打上げ、人工衛星載ソフトウェア独立検証に従事。欧州宇宙機関研究員、宇宙航空研究開発機構主任開発員を経て、2009年より慶應義塾大学准教授。2018年より同教授。日本スポーツ振興センターハイパフォーマンス戦略部アドバイザーなどを歴任。日本代表から地域スポーツまでを対象にしたシステムデザインや戦略立案、人材育成の取り組みに従事。内閣府や経済産業省、総務省でのスポーツデータやデータポータビリティに関する各種委員。